

平成28年度「京都市交通バリアフリー推進会議」

会 議 摘 録

日時：平成29年3月9日（木）

午後2時から午後4時まで

場所：左京区役所大会議室B・C（1階）

1. 開会 ：京都市交通政策監 佐伯康介から挨拶

2. 議事

（1）平成28年度のバリアフリー化の取組状況について

《会議資料》資料1 京都市のバリアフリー化の取組状況について

資料2 平成28年度のバリアフリーに関する取組について

資料3 西大路地区バリアフリー移動等円滑化基本構想（案）（概要版）

《参考資料》「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想（概要版）

京都駅八条口リニューアルオープン（パンフレット）

《委員からの御意見（○）及び事務局等からの回答（▲）》

○ 京都駅八条口の改修について、以前は障害のある方や双子を連れた方が、狭くて車を取り降りしづらいという意見があったが、どのように変わったのか。

▲ 以前も一般駐車場はあったが、なかなか空きのない状況であった。そこで、駅前のタクシー待機場所を西側に移動し、一般駐車場も廃止することで、島状の一般車乗降場を確保した。

しかし、現状では停車時間が長い方がいらっしゃるなど、乗降利用される車の回転がよくないこともあるため、啓発も含めて取り組んでいきたい。

○ 新幹線に乗り継ごうと2階からエレベーターに乗ろうとしても、既に1階から大勢の方が乗っており、利用できないことがある。そのような時は、やってはいけないことではあるが、車いすやベビーカーをエスカレーターに乗せることもある。

▲ 近年、大きな荷物を持った外国などからの旅行者も増え、エレベーターを利用したいときに利用できない事象が生じていることは承知している。エレベーターでしか移動できない方がいらっしゃるなどを利用者に対して周知し、心のバリアフリーの考え方を広く浸透させていく中で解決される課題であると考えている。

○ 多機能トイレには子ども用便座も設置しているのか。

▲ 全ての多機能トイレの設置状況については不明であるため、今後、各交通事業者の設置状況を把握したい。

○ 資料2の3ページの写真を見ても歩道上に電柱があり障害になっている。無電柱化はバリアフリー事業の範疇に含まれるのか。

▲ 道路のバリアフリー化の手法として無電柱化は含まれないが、電柱が障害となる場合に電柱の集約や移設などで対応している事例もある。

○ 京都駅八条口は使いやすくなった中、外国の方の利用も非常に増えているが、案内板の多言語対応はどのようになっているのか。

▲ 4カ国語や点字で対応している。

(2) 「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想」の進ちょく状況について
《会議資料》資料4 「歩くまち・京都」交通バリアフリー全体構想」の進ちょく状況について
《参考資料》心のバリアフリーハンドブック

《委員からの御意見（○）及び事務局等からの回答（▲）》

○ 視覚障害者は普段利用している駅であっても、ホームから落ちてしまうことがあるため、危ない場合は声を掛けてほしい。

資料4の11ページにある駅における視覚障害者団体の啓発活動については、京都市交通局から声を掛けていただいたことをきっかけに、各交通事業者に広がっていった。今後も一緒に取り組んでいってほしい。駅でも視覚障害者に対する声掛けについてアナウンスが流れるようになったので、非常に喜ばしく思っている。

○ 複数の鉄道が乗り入れるとある駅で乗り継ぎのバリアフリー経路を問い合わせたところ、自社の駅の中のことしか説明せず、他社の駅の事はそちらに聞くように案内されたとの話があった。

複数の鉄道が乗り入れる駅においても利用者にとって分かりやすい案内ができるよう、関係者間の連携をお願いしたい。

○ 資料4の5ページ、6ページに目標値とあるが、これは何の目標値か。

▲ 全体構想の目標値である。

○ 資料4の8ページ（2）課題の上から2つ目において「駅における文字情報についても整備が進んでいるが、緊急時の情報提供のあり方については、引き続き検討が必要である」とあるが、文字情報を表示できるのであれば、緊急時の表示もできるのではないか。

▲ コンコースなどにモニターが設置されている駅も増え、電車に乗る前には遅延情報等を得やすくなっているが、車両内の情報提供については、車内アナウンスのみとなっている場合が多いため、引き続き検討が必要であると考えている。

○ 駅やバスのバリアフリー化の状況は報告されているが、駅からの道路についてもバリアフリー化は必要であり、その状況はどのようになっているのか。

- ▲ 例えば、資料3の2ページの図のように基本構想の中で重点的にバリアフリー化を図る道路を指定し、その後、特定事業計画を作成し整備を進めている。
- 心のバリアフリーについて、市バスにおいては、運転手に対し車いす利用者への接遇について、当事者を招くなど、実際に車いすを利用して研修を実施しているらしく、対応についてのトラブルも少なくなっている。研修などで体験の場を設けていただくと、対応もしやすいため、こういった取組を進めてほしい。困っている方を見かけたときは、見ているだけではなく、声を掛けてほしい。
- ▲ 平成28年4月に「障害者差別解消法」が施行されたことを受け、京都市においても対応要領を作成しているが、当事者を含めての研修や体験を取り入れていきたい。
- 事務局による資料の説明が早いので、もう少しゆっくりと話をしてほしい。これもバリアフリーの1つである。
- 心のバリアフリーの冊子は良くできているので、機会があるごとに配っていただくなど、バリアフリーの啓発に活用してほしい。
- ▲ 冊子の作成に当たって関係団体に御協力いただき、障害の種別ごとに生の声を掲載することができ、他の自治体等からも好評である。どのように活用できるのか関係機関とも調整していく。
- アバンティ前にある公衆トイレに多機能ベッドが設置されたのでうれしく思う。
アバンティのエレベーターは、アバンティが閉まっている間は使えないため、エスカレーターしかなく、雨の日には濡れてしまうため、対応を考えてほしい。
- ▲ バス停のシェルターが途切れている箇所もあるので、雨の日にエスカレーターを利用した際には濡れてしまうが、アバンティ以外にも利用できるエレベーターも設置されており、雨の日でも濡れないルートもある。案内方法に問題があると考えられるため、雨の日のルートも含め改良を検討する。
- ▲ 今回のような場に限らず、何か要望や意見がある際には鉄道事業者に対しても積極的に言ってほしい。
- 車いすでバスを利用される方で、運転手がスロープを出して介助してもお礼の一言もない方を見かけることがある。そこで一言でもお礼があった方が、運転手に対しても乗車を待っている他の方々に対しても良いと思う。お互いのちょっとした一言で状況は変わる。
- その意見はよく分かる。ただ、車いすやベビーカーを利用する人は、邪魔に思われたり、「すみません」とへりくだったりするのが当たり前だと思われており、ハンディキャップがあるほど頭を下げる機会が多くなるため、見かけられた車いすの方の気持ちも分かる。

- 心のバリアフリーの考え方にもあるように、お互いが相手の立場，気持ちになって考えることによって，全ての人が気持ちよく公共交通を利用できる環境が整っていくと考える。
- 障害のある方が鉄道を利用する際は料金が半額となるが，駅の券売機に車いすの障害者マークがある駅とない駅とがある。
マークのない駅では，子ども料金で購入してと言われるが，成人している大人に対してはおかしいと思うので，マークを設置してほしい。

《学識経験者からの総括》

- 西大路地区の基本構想策定に関わっているが，これまでにない大規模な改修が計画されている。一旦は，北側に新駅舎を整備するということで平成 32 年度までの計画となったが，南側にある既存駅舎もどうにかならないかという要望が強くあり，計画でも北側整備後の効果をみつつ，継続的に検討することとなった。バリアフリー経路も 1 つだけではなく複数確保するとか，エスカレーターも設置できるようにするとか，バリアフリーの制度について，国に対して意見，要望を出してほしい。
- 駅やバスについては，全体構想の目標値に整備状況が近づいており，かなり早く整備が進んでいるが，道路が遅れているように感じた。
関西では「すみません」ではなく「ありがとう」の文化であると感じている。「すみません」と頭を下げるのではなく，「ありがとう」があると非常に良いと思うし，そのような環境づくりが必要である。
- 今後も整備や取組を推進してほしい。色々な障害のある方がいる中，研修などを通して日頃から考える機会は必要であり，コミュニケーションは非常に大事である。心のバリアフリーハンドブックは，当事者の生の声も入っており，非常に良くできるので，更新しながら有効に活用してほしい。
- 今までは基本構想を策定して整備を進める方式で進めてきたが，今後，バリアフリー化をどのように進めていくかが問題である。
心のバリアフリーについて，声掛けは喜んでいただけることが分かり，経験を通して学んでいくことも大事であることも分かった。
心のバリアフリーを進めていくための方法論を検討し，実施してほしい。

3. 閉会：京都市都市計画局歩くまち京都推進室長 高畑重勝から挨拶

以上